

【本文】

浄土の大菩提心は

願作仏 心をすすめしむ

すなわち願作仏 心を

度衆 生心となづけたり

【意識】

阿弥陀様を抛り所とする心、信心は私
が作り上げたものではなく、阿弥陀様がお
勧め下さつて、そのお陰で賜つたものです。

その信心は、極楽浄土に往き(往生)仏様
に成らせて頂きたい(成仏)という心でもあ
ります。

その往生成仏せんと思う心は、自分だけが
助かろうという心なのではありません。

すべての人と共にという心と表裏一体なの
です。

【私の味わい】

「箸の使い方」を問う仏教のお話があります。ここにとっても長い箸、自分で自分の口
に運ぶことができないほどの箸があります。目の前には御馳走がありますが、その長さ
のため一向に食べられません。ある人は、どれほど試行錯誤しても自分で食べられず、
ついに飢えてしまいました。しかし、別の人は気づいたのです。お互いに食べさせればい
じやないかと。こうして、互いに食べたものを問ひながら不自由無く腹を満たすことが
出来たのでした。極楽の箸、地獄の箸というお話です。

相手のことを考えて共に生きていく。そうすべきことは、子供でも知っているのでし
うが行うは難しです。また、身内のことは考えられても、全くの他人だどこまで可能
でしょうか。人は、親鸞聖人の仰るように命終わるその時まで自分中心のままなのでし
よう。地獄の箸のお話は、「私が」「私は」と我を張つて、他は顧みない私たちの姿そのま
まと言えるでしょう。

では、私が阿弥陀様のお陰で極楽へ往かせて頂く、そして身内も他人も全てが極楽へ
往生させて頂くのだ、有難いなあとという心(信心)は、人間が自分で作り上げて磨き上
げた心なのでしょうか。そうではなく、この心は、人間の手あかの全く付いていない、
仏様が作り磨き上げられた清き心なのです。だからこそ、皆で同じ信心、同じお念仏
を称えさせていただき、同じ極楽浄土へと往かせて頂くのです。仏様から頂いた心、
信心を頂いた喜びを時代を超えて、親鸞様とそして皆様と喜ばせて頂くことです。

(悠水)